S邸
高台
木造金物工法
工期120日
プリープラン

右頁／玄関を開けると、薪ストーブとバイクのある土間。視線はアイアンで製作したストリップ階段を介して外へと抜ける　左頁・右上／土間とオープンでつながるLDK。床はSさんの希望で無垢のホワイトオークをヘリンボーン張りに　右下左／コンクリートで製作したキッチンの前と、左手の壁際にはカウンター　右下左／外壁はガルバリウムを横張りにし、エントランスは吹き抜けに　左／2階の寝室にはセカンドリビングも。「長期優良住宅」の認定取得が山内組の標準

18

ドアの向こうには吹き抜けの土間。下地材を使った壁。「攻める」家はコラボで生まれた。

出発点は「奇抜でいい」というSさんの言葉だった。続けて出されたキーワードは薪ストーブ、バイク、ヘリンボーン、鋼。これを聞いた山内孝明社長は、組長い土間が、仕切りなくLDKとつながるプランを提案した。ただ、Sさんはちょっと躊躇した。「想像もしていなかったので、どうなんだろうと思って」。しかし結局、複数のプランを検討するうちに、ファーストプランに戻った。「ありなんじゃないかと思えてきたんです」。そんな紆余曲折は、壁全面に張った木毛セメント板でも、あった。下地材をあえて表面に使うという案を当初は受け入れたものの、施工前に重ねてあった建材を見て、一抹の不安を抱いていたSさん。しかし、そうした小さな不安も、家ができあがった時にはすべて、反転することになる。「どんぴしゃで、はめてくれたと思いました」。

キーワードをガイドラインに、聞取りを導き出し、材料を当てはめた今回の家づくりについて、山内社長は「好きなテイストと重なるところもあって、思い切った提案ができた」と話す。ただしそこには緻密な計算が込められている。統一感を出すため、使う素材を金属、コンクリート、木材に限定し、色味もグレーと茶系に絞ったり、建具はオリジナルで製作したり。さらに、木毛セメント板については、ハリ留めにすることで、雰囲気を損なわないように仕上げたという。「コラボする相手はお客さん。許容してくれる相手あってこその家づくり」。そんなarchi-laboの理念が見える一棟だ。

18 資料請求番号

株式会社山内組 archi labo
〒959-1308 加茂市大字島森甲218
Tel 0256-52-6423 Fax 0256-52-0311

詳しい企業情報は「ビルダーズスクエア」をご覧ください。

資料請求をして頂いた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。※詳細はOOOページをご覧ください。スマートフォンからでも資料請求できます。

18
BUILDER REPORT
archi labo

「家づくりはコラボレーション」。理念を映す住まい

株式会社山内組
archi labo